

## 第 21 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 1 月 27 日（火）

18 時～19 時 30 分

会場：南箕輪村防災研修センター

「森の学び舎」

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 会議事項

（１）第 20 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料 1】

（２）今年度の経過と今後のスケジュール 【資料 2】

（３）設計者からの提案説明 【資料 3】

#### 4 その他

#### 5 閉 会

# 新校再編実施計画懇話会開催要綱

高校再編推進室

## （目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

## （会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

## （構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

## （開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

## 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長○ 新規※		所属等	役職等
1	自治体		宮澤 和徳	辰野町教育委員会	教育長
2			小林 久通	箕輪町教育委員会	教育長
3			田中 俊彦	南箕輪村	副村長
4		※	尾形 浩	南箕輪村教育委員会	教育長
5			福與 雅寿	伊那市教育委員会	教育長
6			小平 操	駒ヶ根市	副市長
7		◎	加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
8			片桐 健	飯島町教育委員会	教育長
9			片桐 俊男	中川村教育委員会	教育長
10			唐澤 直樹	上伊那広域連合	事務局長
11	地域		池上 安雄	上伊那地域振興局	局長
12	産業界		山寺 正子	辰野町商工会	代表
13			漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
14			堀井 一政	南箕輪村商工会	副会長
15			山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
16		※	田畑 和輝	伊那商工会議所	副会頭
17	同窓会		林 龍太郎	辰野高等学校同窓会	会長
18			小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
19			宮原 達明	上伊那農業高等学校同窓会	会長
20			湯澤 英喜	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
21	P T A		山崎 貴弘	辰野高等学校 P T A	会長
22			松村 あゆみ	箕輪進修高等学校 P T A	副会長
23			北澤 繁樹	上伊那農業高等学校 P T A	会長
24			平澤 和香枝	駒ヶ根工業高等学校 P T A	副会長
25	学校関係者		清水 慶一	上伊那中学校長会（長谷中学校長）	副会長
26			池上 浩人	上伊那小学校長会（赤穂南小学校長）	副会長
27			小池 景子	伊那養護学校	校長
28	学識経験者		松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
29			工藤 賢一	南信工科短期大学校	副校長
30	統合対象校 関係者		清水 敏	辰野高等学校	校長
31			棚田 美穂	箕輪進修高等学校	校長
32			小池真理子	上伊那農業高等学校	校長
33			功刀 裕	駒ヶ根工業高等学校	校長
34		※	有賀 紗菜	辰野高等学校	生徒代表
35			藤沢カウ工勇志	箕輪進修高等学校	生徒代表
36			ザヒンラフマン マドルジョ	上伊那農業高等学校	生徒代表
37		※	原田 和磨	駒ヶ根工業高等学校	生徒代表

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰 野	齋藤 美幸（教頭）、宮澤 幸高
箕 輪 進 修	岩田 今朝宣（教頭）、井原 浩一郎
上 伊 那 農 業	塩原 慎一（教頭）、山下 昌秀、境 久雄、相沢 哲也
駒 ヶ 根 工 業	藤田 晶子（教頭）、竹内 浩一、新井 利尚、伊藤 文春、松原 英雄、小林 一久

		所属等	役職等
長野県教育委員会 事務局		原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室
		望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室
		原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室
		小池 智博	高校教育課 高校再編推進室
		米澤 和真	高校教育課 高校再編推進室
		城取 恭子	学びの改革支援課
			指導主事

## 第 20 回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時・会場	令和 7 年（2025 年）7 月 15 日（火） 18 時 00 分～19 時 30 分 伊那市役所 501・502 会議室
出欠席	懇話会構成員（敬称略）（◎座長） 出席者 32 名 宮澤 和徳 小林 久通 田中 俊彦 清水 閣成 福與 雅寿 小平 操 ◎加藤 孝志 片桐 健 片桐 俊男 唐澤 直樹 池上 安雄 漆戸 豊徳 山下 政隆 林 龍太郎 小河 節郎 宮原 達明 湯澤 英喜 松村あゆみ 北澤 繁樹 平澤和香枝 清水 慶一 小池 景子 松島 憲一 工藤 賢一 清水 敏 棚田 美穂 小池眞理子 功刀 裕 荻原菜々子 藤沢カウエ勇志 ザヒンラフマン マドルジョ 近藤 響佳 欠席者 5 名 山寺 正子 堀井 一政 向山 賢悟 山崎 貴弘 池上 浩人
事務局	県教育委員会 5 名 百瀬参事 原（多）主幹指導主事 原（周）主任指導主事 熊谷担当係長 望月主任指導主事 辰野高校 2 名 齋藤教頭 宮澤教諭 箕輪進修高校 2 名 岩田教頭 井原教諭 上伊那農業高校 3 名 塩原教頭 境教諭 相沢教諭 駒ヶ根工業高校 4 名 藤田教頭 竹内教諭 新井教諭 伊藤教諭
傍聴者	傍聴 7 名、報道 6 社
会議事項	（1）第 19 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ （2）学びのイメージ 説明 （3）施設整備基本計画策定に向けたプロポーザルの実施について
当日資料	第 20 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会（資料 1～資料 3）
事前配布資料	第 20 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会（資料 1～資料 3）

### 主な内容(意見及び発言等、→事務局回答)

#### ○冒頭において新構成員から自己紹介

上伊那地域振興局長、上伊那農業高校同窓会長、辰野高等学校 PTA 代表、箕輪進修高等学校 PTA 代表  
上伊那農業高等学校 PTA 代表、駒ヶ根工業高等学校 PTA 代表、上伊那中学校長会副会長、上伊那小学校長会副会長  
辰野高等学校長、駒ヶ根工業高等学校長 役職交代のため今回から新たに参加  
※前回オンライン開催のため、あらためて生徒代表 4 名からも自己紹介

#### ○会議事項について

（1）第 19 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（資料 1）

・事務局から説明し、意見及び質問はなし

（2）学びのイメージ 説明（資料 2）

・事務局から想定される学級数（農業 3 学級、工業 2 学級、商業 1 学級）及び学びのイメージについて説明

【質疑】（→ 再編推進室回答）

・学びのイメージの説明で、開校時 6 学級を想定している内訳を農業 3 学級、工業 2 学級、商業 1 学級にした根拠は何か。駒工は現在 3 科あり、最低でも 3 科は残してほしいという要望を一貫して申し上げている。

→ 3 科の学びを行っていることは承知している。開校する予定の 10 年後を考えると、生徒数は明らかに減少していく。想定される 10 年後の生徒数や現在の入試の充足率、現中学 3 年生の進路希望調査等を総合的に考えた。尚、最終的に学級数を決定するのは開校前年度の予定。学級数は提示したが、学びについては今の工業科の学びを非常に大事だと考えている。10 年後、またそれ以降にも地域に必要とされる学びをしっかりとおこなってきたい。

・10 年後に社会構造が変わってくることは理解している。その中で、なぜ科の数だけが決まってくるのか。学びのイメージに関しても、紙資料として用意されていないものもあり、ただ説明だけで終わっていくなど、なんとなく曖昧にされてしまっている気がする。ぜひ科の数など、きちんと記載した資料を提出いただきたい。

→ 前回の懇話会から 7 か月ほど経過しており、その間、事務局等でどのような対応をしてきたか説明をさせていただいている。本日の資料は本日のまとめとして文章にして記載し、ホームページにも掲載する。またきちんと決定するものについては、紙にて懇話会の資料とさせていただきたい。

- ・駒工では今3つの科で学んでいる。2つのクラスにするということは、3つの科をばらして2つのクラスで総合的に学ぶのか、または3つのうち1つの科を減らすのか。10年後に必要な科があるかもしれないと言われたが、電気は必要ではないのか、機械は必要ではないのか、子ども達の学びを見ていて、非常に残念で心配である。  
→ 3科の学びについては、学校と相談をさせていただきながら今後も検討をしていく。
  - ・上伊那地域はものづくりが盛んな地域である。工業の生徒が減ってきている状況ではあるが、この先を考えると、地域としては卒業生が戻ってくことはとても大事である。高校再編は魅力的なことであるので、学びも大事にしながら、その専門性が望ましい形となってほしい。  
→ 総合技術高校なので、もちろん各学科の専門性は大事だと考えている。せっかく1つの校舎で一緒に学ぶことから、連携した学びも大事にしていきたい。
- (3) 施設整備基本計画策定に向けたプロポーザルの実施について (資料3)
- 【質疑】(→ 再編推進室回答)
- ・専門性を磨くと共に学科の枠を越えた連携ということで、実際にイメージするのは難しいが、かなり期待をしている。先ほど開校時に6学級として、まだ確定ではないという話だったが、一方で基本計画を立てていく、という段階になってくる。募集学級数は前年度に決める、一方で基本計画を進めていくというのは無理があるのではないかと。  
→ 今回の工事は相当大規模なものであり、現時点から施設整備を始めないと開校までに間に合わない。一方で何が何でも確定していないと基本計画が進んでいかないということではないので、柔軟に進めていきたい。
  - ・3つの学科をつないだもの、それは本当に素晴らしいと思っている。しかし、専門的な学びは学校の強みであり、魅力的な部分であるため、専門性が薄れてしまうのではという不安が残る。  
→ 専門性も大事だと考えると同時に、それをもとにした融合的な学びがあることで、知恵を出し合ったり、お互いにアドバイスできること、また自分の専門だけでは解決しないことが、他学科の視点があることで解決に向かうこともあるかもしれない。皆さんの意見をいただいて、よりよい学びができるように考えていきたい。
  - ・体育館も改築になっていたが、工事の期間、部活動で使えなくなるのか。何か対策はあるのかどうか。  
→ 整備期間中、上伊那農業高校の在校生の学びについてはしっかりと保障していく。部活に限らず、学びの保障はしっかりと考えていく。

#### ◎座長まとめ

- ・今の学びがいかに大事なものかということをまず強く感じ、そこにつながるこれからの学びの質をどうしていくのか、それをみんなで考えていく、その大切さにも気づかされた。
- 今日の懇話会では、事務局から学びのイメージや施設整備の基本実施計画策定に向けたプロポーザルの実施について提案説明をいただいた。今日出された意見を参考にいただき、更に準備を進めていただくとともに、上伊那総合技術新校が地域子どもたち、また地域の皆さんにとって魅力的な学校になるよう、引き続き検討をしていただきたい。

#### その他

- ・第21回懇話会については日程調整中

# 今年度の経過と基本計画策定までの流れについて

資料2

高校再編推進室

県教委

校長・事務局会

地域・生徒・学校

第20回懇話会:7月15日

・募集学級数説明 ・プロポーザルの概要、スケジュール説明

8月 プロポーザル公告

一次審査:10月22日

二次審査:12月7日

二次審査参加者によるプレゼンテーションと審査委員からのヒアリング(傍聴者からの質疑応答)  
審議、審査結果発表、審査委員長講評  
遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体を選定

第21回懇話会:1月27日

設計者の紹介とプロポーザルで提案いただいた内容の説明

ワークショップ開催(対象:地域住民、生徒、教職員)

新校における学び・生活風景等をイメージし、先行事例等を学びながら上伊那総合技術新校の施設整備について意見交換。地域住民、生徒、学校職員対象のワークショップをそれぞれ複数回開催予定

基本計画決定

令和7年度

令和8年度

## 上伊那総合技術新校 施設整備事業基本計画策定までのスケジュール(予定)

令和8年1月27日現在

R8

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

R9

懇話会

今

R7.1.27

懇話会

懇話会

懇話会

学校

具体的な事項の検討…学科、必要諸室、地域連携のあり方等(県外視察も実施)

施設整備

基本計画策定

案提出

基本設計へ

WS

WSを実施(地域、生徒、学校を対象に予定)